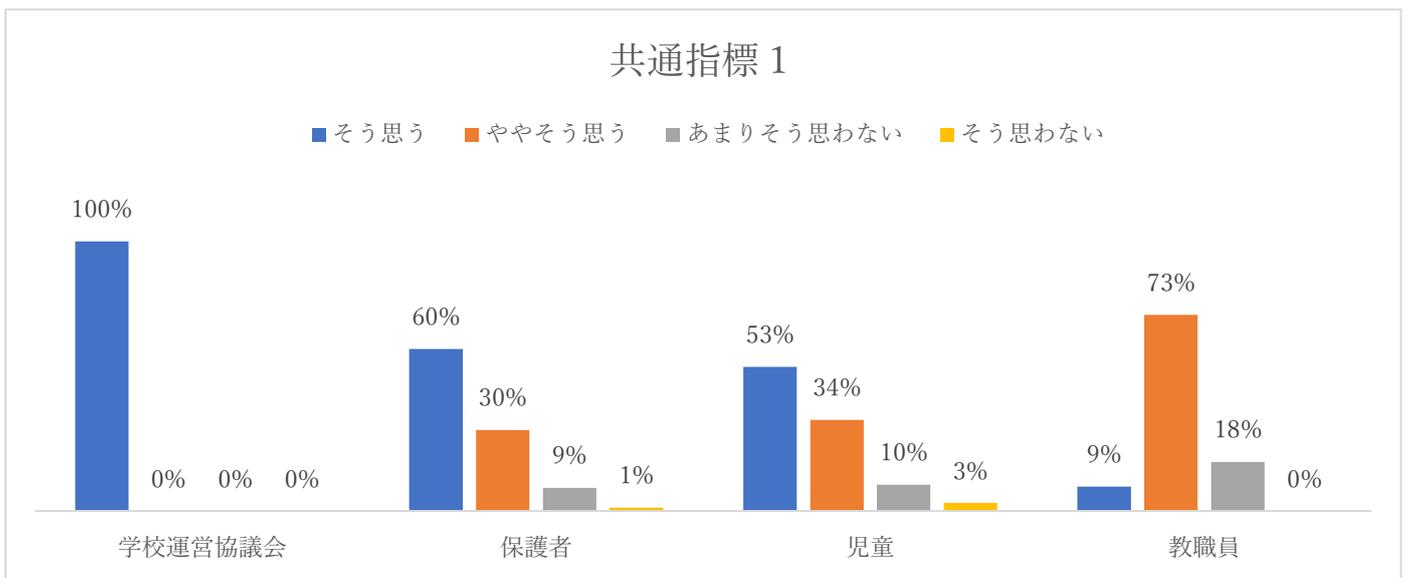


## 令和 6 年度学校評価(1 学期末)評価結果概要

令和 6 年度学校評価の四者(学校運営協議会・保護者・児童・教職員)によるアンケート結果及び考察について、次の通りご報告いたします。

### I 共通指標の集計結果及び考察

#### 共通指標1 わかりやすい授業や個に応じた授業が行われているか

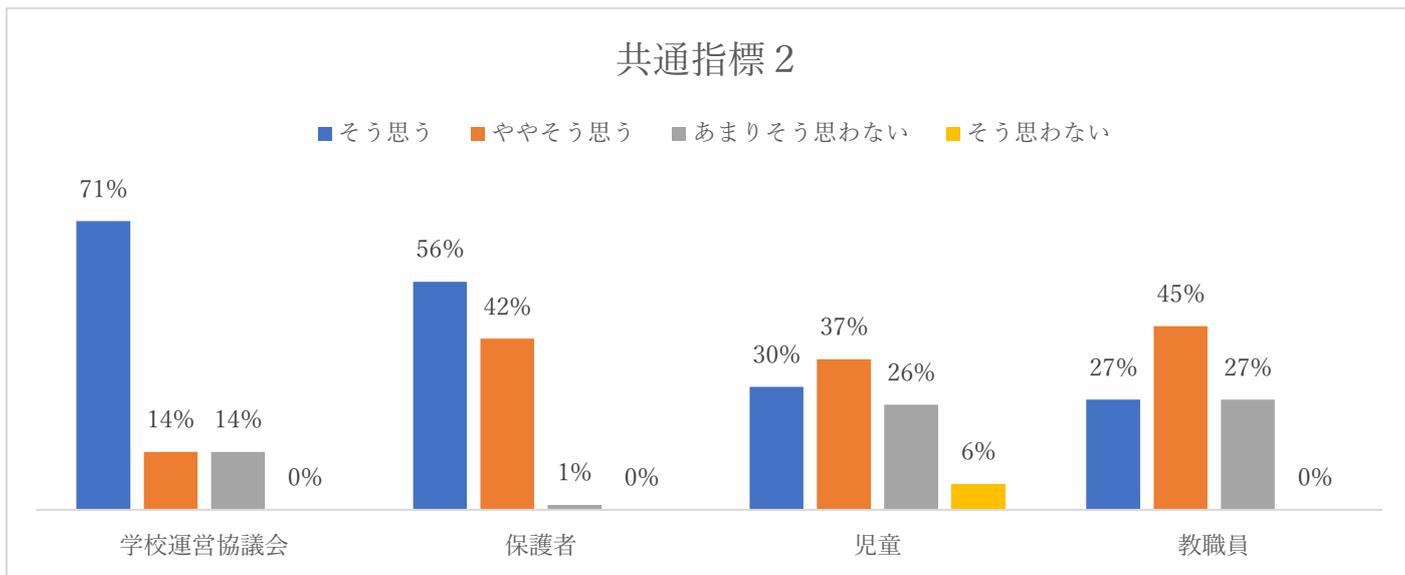


#### 【考察】

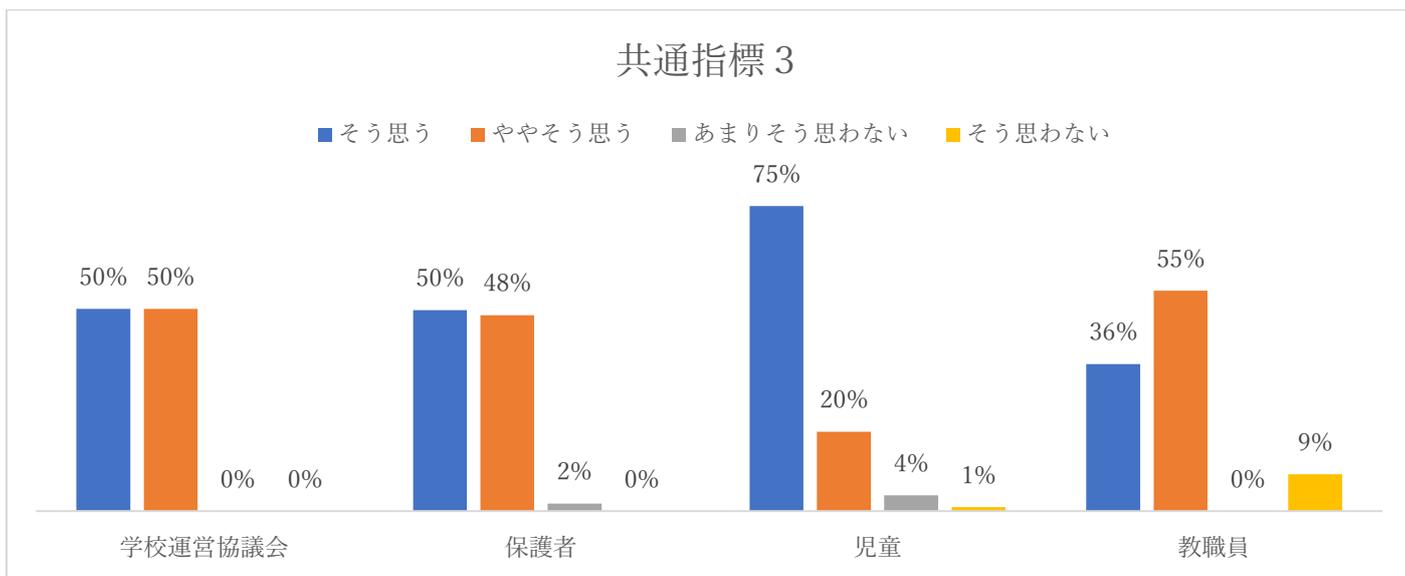
保護者の 90%、児童の 87%が肯定的な回答を示した。また、教職員の 82%も肯定的な回答を示したが、「そう思う」と答えた割合が 9%と非常に低いため、今後もさらなる授業改善・授業改革を進めていく。

→授業づくりの基盤としての「ユニバーサルデザインの意識化」授業づくりの基本としての「焦点化・イメージ化・視覚化」の上に成り立つ「子どもが主語の4つの共通取組場面(見通す・決定する・協働する・振り返る)」の実践

共通指標2 児童が、話し合い活動や表現活動を通じて自らの考えを深めたり、広げたりする授業が行われているか



共通指標3 児童が、自分で考えた手立てで課題解決に取り組む場面が設定された授業が行われているか。



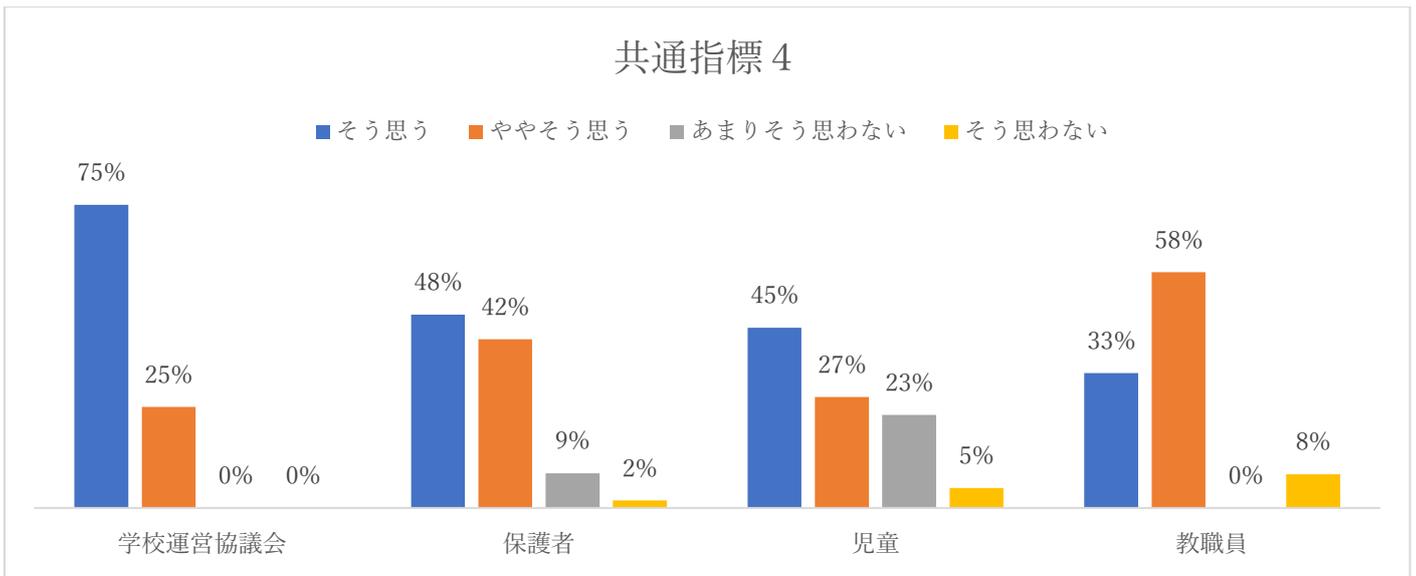
【考察】

共通指標2については、保護者の98%が肯定的な回答を示したが、実態がわからないため、消極的に回答した可能性が高い。肯定的な回答の割合が児童67%、教職員72%であることから、十分とは言えない現状が浮かび上がってくる。

共通指標3についても、このような授業を保護者に提示しきれていない可能性が高いが、児童・教職員とも90%以上が肯定的な回答を示していることから、こちらについてはある程度実践できていると判断する。(※共通指標3については、4年生以上を対象にアンケートを実施した)

→学年の実態に応じて、各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間等を通じて、話し合ったり発表したりする授業を実施し、他者の意見や考えを取り入れることでの、自分の考えを深めたり広げたりする力の育成。

共通指標4 授業のほか様々な教育活動でタブレットを活用し、教育活動の充実に努めているか。

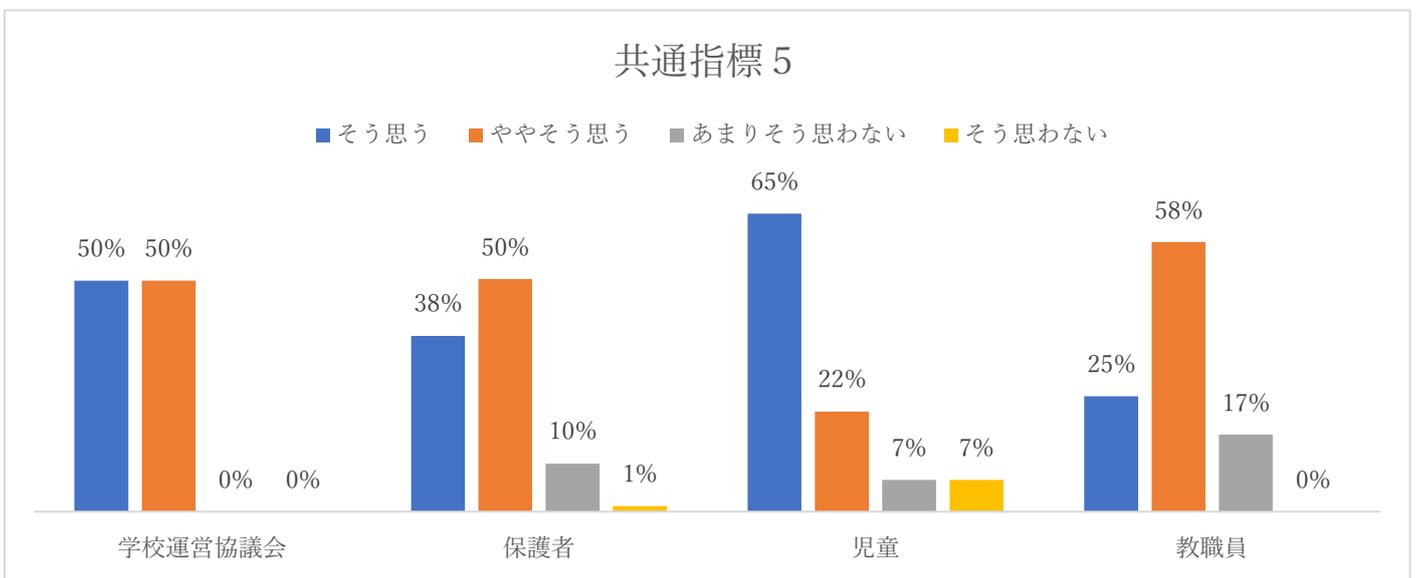


**【考察】**

保護者の 90%、教職員の 91%が肯定的な回答を示した。教育活動におけるタブレット活用については、ある程度認知され、教育活動に反映されていると考えられる。肯定的な回答をした児童の割合が 72%と低くなっているが、これは、まだほとんどタブレットを使用していない 1 年生を含めた割合であり、4 年生以上に限定すると、91%が肯定的な回答を示している。

→日常的な持ち帰りの実施、タブレットを活用した場面の参観機会の提供

共通指標5 地域と連携協働し、地域の人材・施設を適切に活用した教育活動の充実に努めているか。

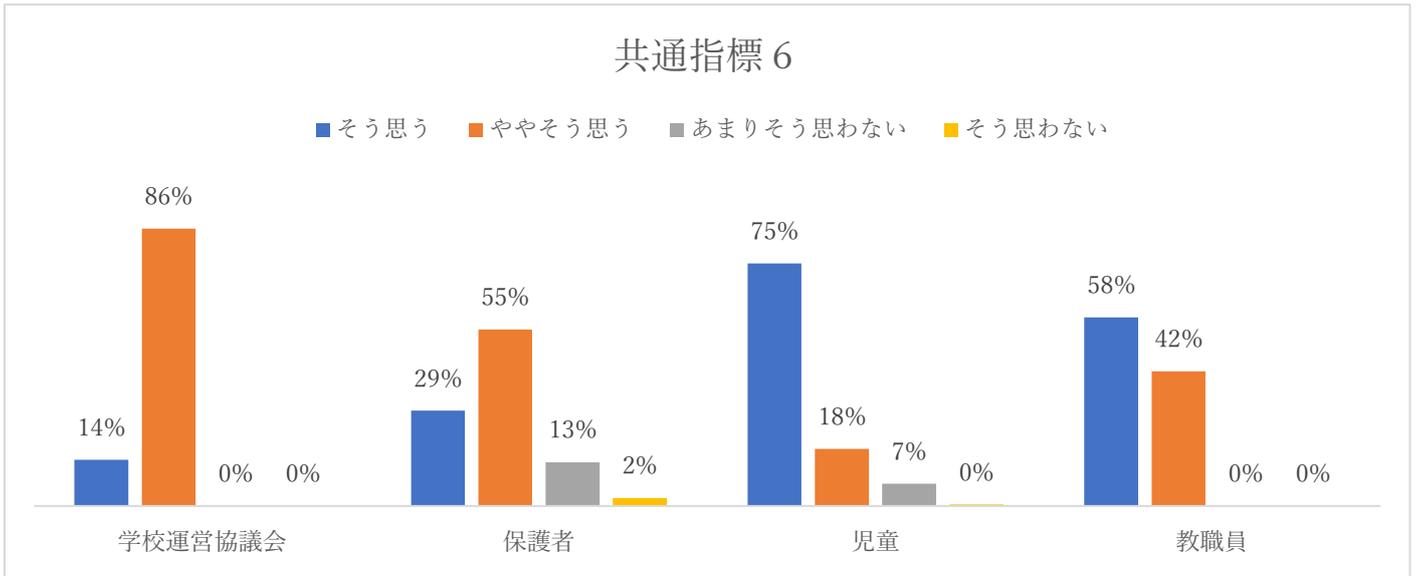


**【考察】**

保護者・児童・教職員とも、80%以上が肯定的な回答を示している。4年生以上の児童に限れば、この割合はさらに高くなる。「あまりそう思わない」と回答した教職員が 17%いるが、歩道橋清掃だけでなく、より多くの場面で地域と連携協働した学びができないかというコメントがあった。

→日常の学習における地域との連携協働した学びの模索

共通指標6 いじめの未然防止、再発防止に努めているか。

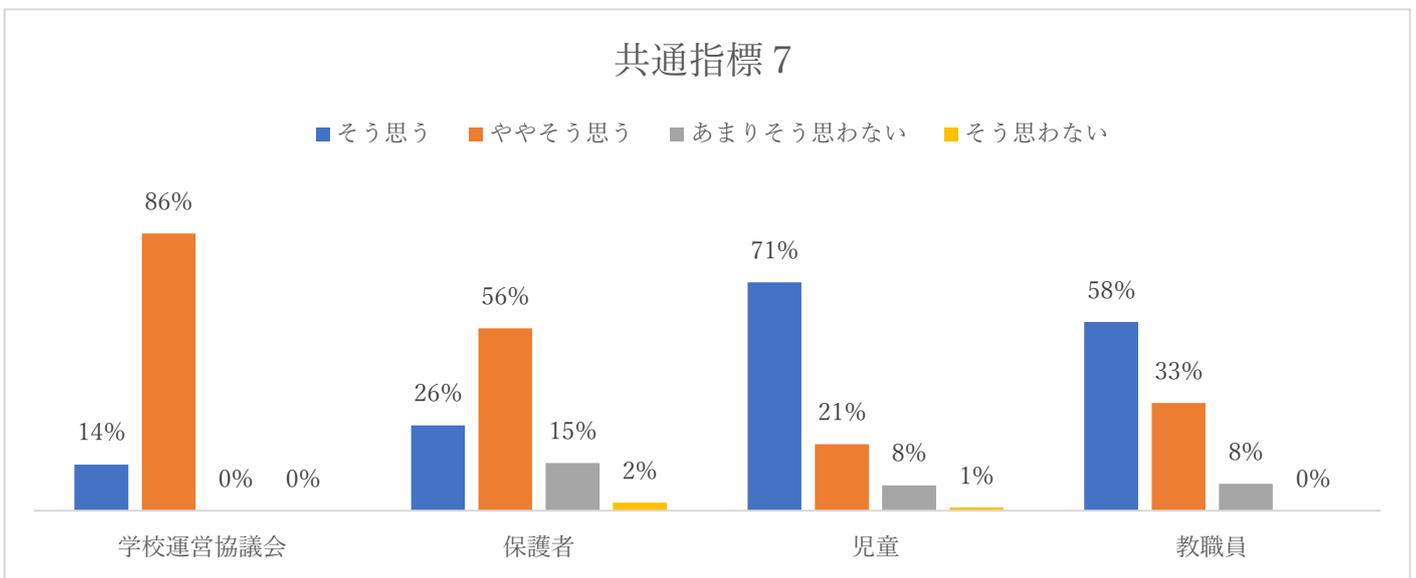


【考察】

教職員全員が肯定的に回答した反面、保護者の 15%、児童の 7%が十分ではないという認識を持っている。また、肯定的な回答を示している児童の多くは、「そう思う」と回答しているのに対し、保護者は「ややそう思う」が「そう思う」の 2 倍近くになっていることから、本校の対応が十分ではないことがわかる。

→「嫌な思いをしている」児童に対する聞き取りと心のケア、いじめている児童への指導と保護者への報告等の適切な実施

共通指標7 児童が安心できる学校づくりや居場所づくり、不登校児童への支援に努めているか。

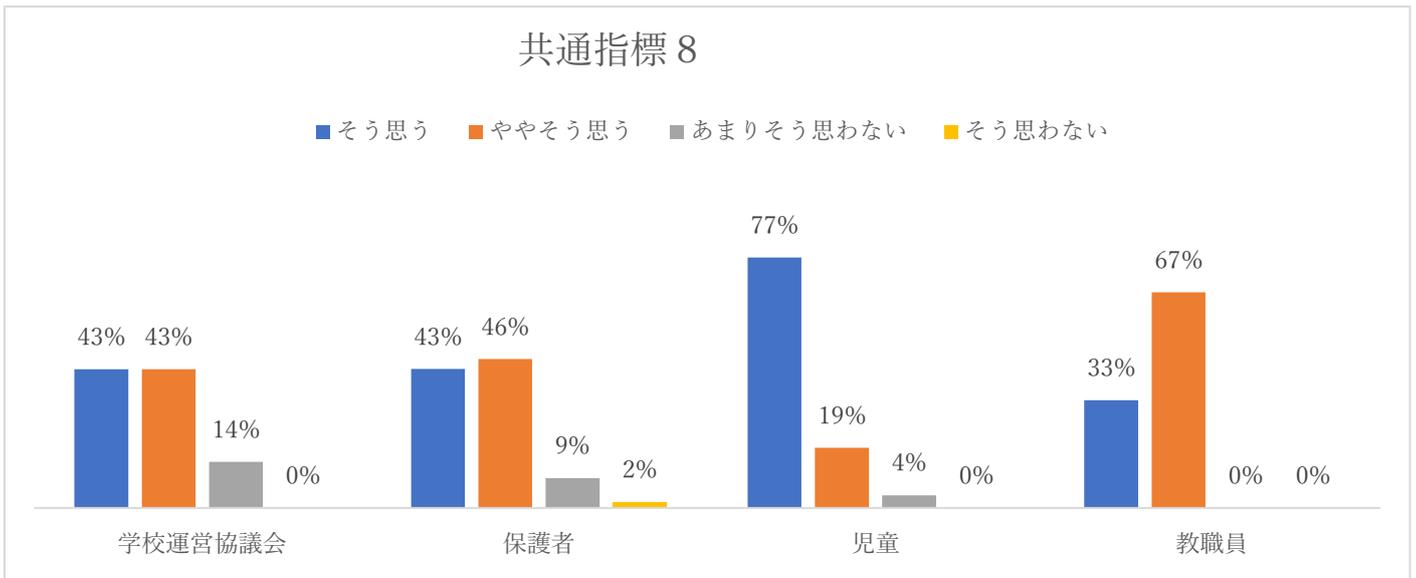


【考察】

保護者の 82%、児童・教職員の 90%以上が肯定的な回答を示した。他の指標同様、学校の取組が保護者に十分伝わっていないことが理由の主たるものと考えられる。しかし、9%の児童が十分ではないと感じていることから、引き続き児童の心理的安全性の向上と、児童が担任・教室以外でも大人とつながったり安心したりできる場の設定充実に努める。

→校内教育支援センターの充実、スクールカウンセラー等外部機関との連携強化

共通指標8 思いやりや礼儀、公正などを大切にする心を育む教育に努めているか。

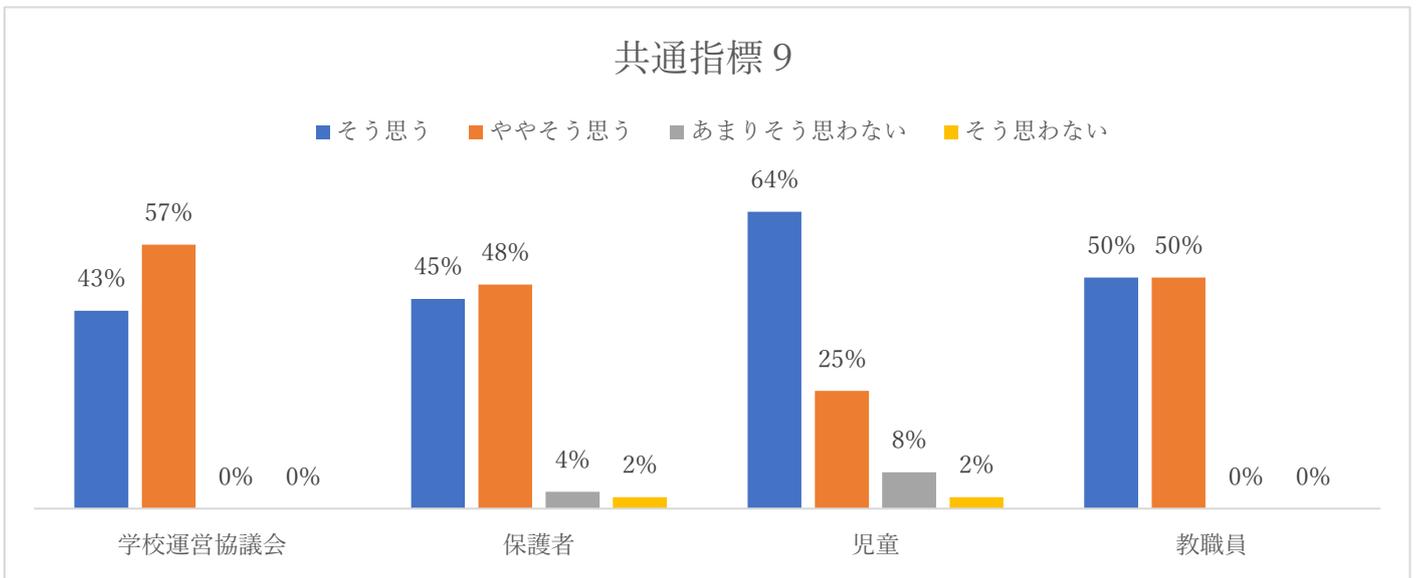


**【考察】**

児童のほぼ全員、全教職員が肯定的な回答を示しているのに対し、保護者の11%が十分ではないという思いをもっている。引き続き、すべての教育活動を通じ、多様性の理解と尊重を基盤とする、思いやりの心や生命の尊重など、児童の豊かな心の育成を目指す。

→道徳の時間を基盤とする、学校の教育活動全般を通じた道徳教育の推進、地域活動への参加を通じたところの教育の充実

共通指標9 防災訓練や防犯、薬物乱用、インターネットの利用等の学習活動を適切に実施し、危機管理の充実に努めているか。

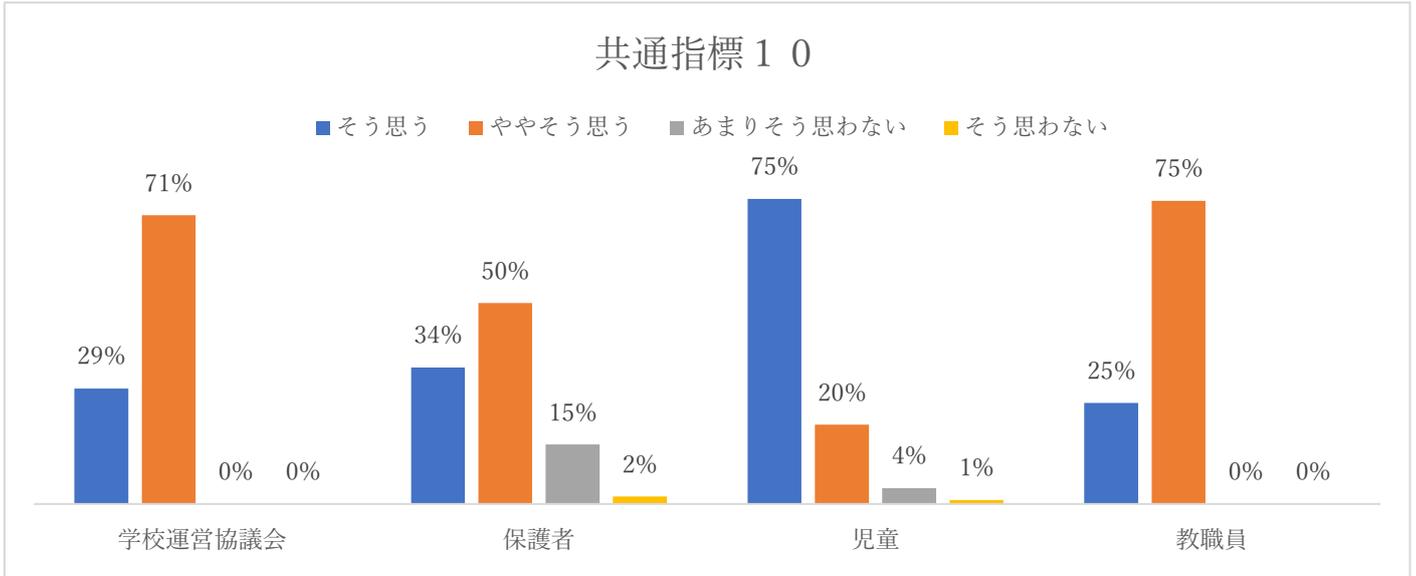


**【考察】**

四者すべての肯定的な回答が 90%を超えており、本校の取組に一定の理解が得られていると認識している。しかし、保護者の6%が十分ではないと考えていることから、安全教育のさらなる充実を目指す。

→日常的な防犯意識の向上につながる安全教育の推進、とりわけ、インターネット利用に関する知識の啓発と指導の充実

共通指標10 生命や性に対する正しい理解を促すための学習活動を適切に実施しているか。



【考察】

児童のほぼ全員、全教職員が肯定的な回答を示しているのに対し、保護者の17%が十分ではないと回答した。これは、生と性の教育に関する学校からの発信が十分ではなかったためと推測している。

→保護者に対する本校、本エリアにおける「性に関する指導」についての情報提供の推進及び、授業参観の機会の確保